

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人英生会 英生会 グループホーム ゆめみの	評価実施年月日	平成20年6月14日
評価実施構成員氏名	中野 由美 千田 千百合 野崎 由恵 山田 あゆみ 中川 奈緒美 新 さおり 松本 正江 今井 弘美		
記録者氏名	中野 由美	記録年月日	平成20年7月2日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>入居者の視点に立った事業所独自の理念を掲げ、家族や地域にも開示している。推進して施設の存在を知ってもらい理解を深められるよう努力している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>現場の目のとどく場所に理念を掲示し、理念を念頭においたケア目標を職員が個々に立てている。又職員全員が理念を携帯し常に確認出来る様にしている。</p>	<p>カンファレンスはその都度行い理念に沿った介護計画の実践に向け取り組んでいる。職員間でその業務は定着している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>毎月家族宛お便りを発行しており理解していただける様取り組んでいる。ご家族との関係を重視しほとんどのご家族が面会に来られる。常にコミュニケーションを図る様にして理念を理解していただいている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日々の挨拶を基本に、事業所で採れた野菜を入居者と共に近所に配ったり、回覧板を回したりしている。入居、希望の方に限らず、常に見学者を受付けている。又近所の子供も遊びにくるなどし、普段から交流の機会を設ける様に努めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>花壇の整備等地域の活動へ参加している。町内会に入り自治会による催し物も入居者の希望があれば参加している。</p>	
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>職員が認知症に対する知識を常に高める努力をし、地域からの相談等に対応できるように勤めている。又市内のグループホームとも協力して地域に向けた認知症講座を開催し地域への働きかけをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員が自己評価を行なっている。又管理者から定期的に行なわれているスタッフ通信にも自己評価の説明を行なっている。又会議や日常生活においても改善に向け話し合いをおこなっている。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	その会議で出た意見については職員間でも話合うようにして改善できるものはただちに直しサービス向上に向けての取り組みをしている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所介護保険課職員とは訪問したり電話連絡をするなどして頻繁に連絡を取っている。又地域包括センター職員と顔なじみであり意見を言いやすい状況である。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員一人一人に対しても基本的な知識として理解を深めていける様資料を配布したりして学ぶ機会を設けている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員会の中で職員に対しての情報、勉強会を行っている。又職員間で常に虐待が身近な問題として向き合えるよう話し合い防止に努めている。定期的に家族や職員に向けたアンケートを行い実態把握、意識調査を行っている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には利用料、医療連携体制、入居時の留意事項など契約書や重要事項説明書に基づき十分説明をし同意を得ている。又身体状況に合わせて何度かご自宅に訪問したり、反対に来所していただいたりして納得のいく上で契約を進めていくようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>認知症の症状等により苦情、不満を聞き出す事は難しいが面会時に家族が感じた事を伺ったり、本人の行動等から身近な職員が捉え改善できるように心がけるようにしている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会時には必ず日常生活の様子やお小遣いの使用報告を確認している。毎月担当職員から写真入りの手紙を送り近況の報告を行なっている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>御家族面会時に職員と話す機会を作りコミュニケーションの向上に努めている。又苦情に関する相談窓口を見やすい所に明記し周知している。また出された要望に対しては速やかに対応するよう職員間で話し合うようにしている。苦情に対してはすぐに上告すると共に原因や対策を検討し今後のケアに活かせる様にしている</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月施設単位の会議やユニット会議を行い全体で意見を言える場を設けている。その後職員の意見として上司に伝えている。又運営者とのヒヤリングなど不定期ではあるが行なっている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>行事等事前に分かっている事は勤務表作成の際に調整している。急な事態(入居者の急変等)に関してはマニュアルの作成が出来ている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の離職に関しては避けられ無い事もあるが、入居者が固定した職員にのみ馴染みの関係が深まらないようにユニット内の全職員が馴染みの関係であるように勤めている。又止むを得ない勤務異動時は職員間申し送りを密に行ない今までと変わらず統一したケアが行える様配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修はもちろんのこと継続的に行っている外部研修は職員の介護実践の習熟度に応じて法人の選出による出席が多いが、職員の個々の希望も尊重している。研修の内容は報告の場を設け共有も図っている。法人内の講習会やトレーニング等内部研修も充実している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内には11件以上のグループホームがあり、月1回「管理者の集い」と「職員交流会」を行っている。法人開催の講習会や行事には同業者に案内すると、共に案内を受けた際には積極的に参加している、又相互訪問は随時行い共にサービスの質の向上を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は職員の状況を把握できる様定期的に管理者との話し合いの場を設け報告を受けている。又親睦会などでコミュニケーションを図りストレス軽減に努めている。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各研修参加への参加を許可したり、法人主催の勉強会を設けたりして職員個々のスキルアップに向けた働き掛けを行なっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	出来るだけ入所前にホームに来てもらうなどし雰囲気を感じてもらい早期からの信頼関係構築に努めている。又併設の小規模多機能からの入居に備え時間がある時や行事などを利用して普段から接する機会を設ける様にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	申込みに来られても話をよく聞く事で介護相談のみで満足して帰られる方もいる。入居を全前提として対応するのではなくその時に何が必要かを見極めるようにし長い目でみて次に進めていく様にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族のその時の状況や要望に応じて早急に入居が必要なときには他のグループホームや入居施設を紹介したり、又居宅のケアマネに相談したりして対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂いたり、小規模多機能からの入居の場合は職員も顔を出したりして馴染みの関係を作る様にしている。入居して間もない時期はいつでも一時帰宅(外泊)出来るように御家族と対応を検討し連携を取っている。新規入居者へは、特にコミュニケーションを多く取り家族からの情報を取り入れアセスメントし初期計画に反映出来るように関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「介護する」という一方的な意識を持たず暮らしの中で入居者と職員がお互い協力、共有の場が持てるよう努め日常的に自然に行える環境になっている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事の参加を含め入居者を中心に一緒に楽しむ場がある。(クリスマス会、敬老会、バーベキュー等)。家族と職員との間で思いの食い違いがある場合には時間をゆっくりかけ、家族の思いも十分受容する姿勢をもち協力関係が築いていける様努力している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時には普段の本人の思いを家族に伝えお互いの架け橋的存在として関わる様にしている。又外出や外泊、行事への参加をお願いし本人と家族と一緒に過ごせる時間を設ける様にしている。入居してから本人の状態がよくなり笑顔が多くみられる様になった事で家族の安心感も増し更に良い関係が保たれる様になった人もいる。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出来るだけ本人のそれまでの生活が維持できる様に支援している。美容室や買い物へ出かける事や畑仕事などその方の生活習慣を尊重している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は入居者同士の関係を把握するように努めている。共同空間の中に入居者同士が自由に過ごせる様な居場所を確保している。職員が間に入り会話の橋渡しを行なうなどして間に入り関係を支える様努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等で退居した方に対しても、お見舞いに行き安心して頂いたり、御家族から近況を聞いたりしている。そのあとのサービスについても相談があれば乗る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で希望や思いをくみとり把握に努めている。家族からも補足してもらい介護計画の中に本人の希望を取り入れ重要視するようにしている。困難な場合は家族からの情報を得て計画作成者、ケアマネージャー、担当職員を交えたカンファレンスを行い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	グループホームで介護をしていく上でこれまでの生活歴を知る事の大切さを家族に伝え協力を得て情報収集している。契約時には得られなかった情報を日々の暮らしの中で確認していったり、面会時に家族に聞くなどして随時収集していく様にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者一人一人に対して24時間アセスメントを行ない排泄、食事、水分、睡眠等把握に努めている。又身体面では主治医や看護師とも連携し把握に努め早期対応を心掛けている。持っている力、出来る力を見極め自立に向けた生活が送れる様検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成は本人や家族から思いを聞き、計画作成者、職員、ケアマネージャー、看護師等でそれぞれの視点から意見を出し合い作成している。また必要に応じて医師や理学療法士にも相談し指示をもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	大きな変化が無い場合は3ヶ月に1回モニタリングを行ない介護計画の見直しを行なっている。又入退院後には現状に即した介護計画になる様ケア関係者や主治医、看護師の意見も聞いて見直す様になっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを活用し24時間の記録をしている、日々の体調(バイタル、排泄)は表にし異常や急変に早く気づけるようにしている。精神面、生活面の変化はカンファレンスや個別ノートに記録し職員は勤務に着く前に必ず目を通してしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族との外出、外泊、面会は自由であり御家族の要望に応じるよう努めている。又外出や外泊時には送迎を行なうなど出来るだけ希望に添った支援を行なっている。通院、入院には御家族に代わり付き添いを行い、家族との連携を図っている。又入居前に入っていた馴染みの店等がある場合は一緒に行くようにするなど支援している。		本人の行きたい時に行きたい所へいける様最大限努力をし支援行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	傾聴、歌会ボランティアの支援を受けたり、夏祭り等の行事には地域のボランティアの協力をうけている。防災月間等には消防の訪問を受けている。警察や消防には協力を得られるよう情報提供している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	在宅介護支援事業所、併設事業所のケアマネージャーと常に連携を取っている。本人の体調や希望により訪問の床屋も利用してもらっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し交流が保たれる様働き掛けている。又解らない事や先に仕入れた情報などは密に連絡を取り合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>契約時に確認し本人、ご家族の希望するかかりつけ医に受診するようにしている。月2回訪問診療も受け健康チェックをしている。又通院は基本的に家族同行の受診としているが、家族対応が難しい場合は職員が代行するようにしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>提携医療機関の医師がシルビアホームでの研修を受けており、訪問診療時に日常の入居者の姿を通じて適切な指示、助言をもらっている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携体制でグループホーム職員は看護師を配置しており、健康管理や状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。また訪問看護ステーションとも契約しており24時間体制で緊急時の対応や相談を行なえる様にしている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には必ず職員が付き添い、医療機関に本人の状態等を提供している。入院中は本人の精神的混乱を最小限に防ぐ事が出来る様顔見知りの職員が頻繁に面会(見舞い)に行くようにしている。また主治医、看護師、相談員、家族と情報交換しながら早期に退院できるように連携している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>グループホームでの看取り、医療機関での終末期に対し事前に家族から意向、意見を聞き相談の基方針を示している、職員が認識してケアを行っている。又かかりつけ医の指示を受けながら出来る事を支援している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>毎月2回の在宅診療等で医師と職員が連携を取り、急変時に速やかな対応が出来るように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替え又は入院の際に関して介護添書などを添え十分な情報交換を行っている。又家族とも話し合いを行い本人にとってなにかが一番良いかを常に検討している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人生の先輩として尊敬し敬う言葉掛けを心がけ誇りをそこねたりする事のないよう日々努めている。記録類の外部持ち出しは禁止している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個別支援を常に重視し個々の意思や決定を尊重し他の選択肢を促したり、無理強いはしない。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、その時々本人の意思や気持ちを大切にして個別の支援に努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみ、理容、美容においても本人の嗜好を重視し尊重している。自己決定が難しい方には職員が共に考え支援している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎週金曜日に献立を立てる際に利用者と共に楽しみながら考えている。食事は利用者と職員と一緒に食べ会話を楽しんでいる。準備、調理、後片付け等利用者に合わせながら出来る事を一緒に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は一人一人の嗜好を理解している。本人の嗜好に合わせ飲み物、菓子等種類を多く選択できる様に支援している。喫煙される方は現在いない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿チェック表を利用し個々の排泄パターンを把握し時間でのトイレ誘導を行いトイレで排泄出来る様支援している。個々の排泄習慣や状況、又は家族とも話し合いながら使用する排泄用品を使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴の対応をしている。時間帯は本人の意思を尊重し入浴している。湯船の温度も個々の希望、好みに合わせ調整している又仲の良い者同士が一緒に入ったり出来る様支援している。希望時は温泉などにも個人支援で行っている。		希望があれば、同じ敷地内に隣接している、小規模多機能のお風呂を借りて入浴するなどし楽しみや、気分転換になるよう努めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不眠時の状態を把握し日中の傾眠時間や活動時間を考え部屋の温度、湿度に配慮し、暖房、加湿調整を行い安眠出来るように努めている。又寝付けない時は添い寝をしたり、温かい飲み物などを飲みながらおしゃべりする等の配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	積極的にコミュニケーションを取り本人の興味のある事等を見極め家族からも情報協力を得ながら個々が楽しく力を発揮出来るような役割を支援している。(買い物、外出、畑仕事、家事、散歩)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々でお金を持っていたい方には家族の協力を得て所持していただいている。又家族より預かってお金を事業所で管理し買い物時自分で支払ってもらえる様手渡しなどして支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望に添って温泉、買い物ドライブ等行っている。又日常的に散歩、買い物を行える。一人一人の習慣や楽しみ事に合わせて喫茶店や温泉などに出かけている。		今後も利用者の希望に添っていききたいと思う。又希望を伝えられない方の馴染みの場所等を家族に聞き個別対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月行事計画を立てている。誕生者などがいる月は本人の希望にあわせた外出が出来るよう支援している。又家族参加の行事(温泉など)も予定し、案内を出し参加を呼びかけている。又外出時には職員の勤務を調整しながら行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	好きな時間に電話出来る様にしている。また家族ともよく話し合いをし電話をする事に理解をもらっている。又希望時は年賀状を出す為の支援を行い日常的に電話や手書を出せる様に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を定めておらず、仕事帰りなど家族の都合の良い時間に気軽に訪問していただいている。又古くからの友人などが来た際にも希望があれば一緒に食事を食べられる様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。身体拘束委員会を設置し毎月委員会を開催している。又職員に対してアンケートをとり拘束について常に高い意識で拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中鍵をかけず自由に出入りできる様にしている。入居者が外出しそうな様子を察知したらさり気なく声掛けし一緒についていたり、一人で外出を好む方には本人には見えない所から見守りするなどし安全面に配慮し自由な暮らしを支援できる様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	記録等の記入はコミュニケーションを取る為にも利用者と同じ空間で行うようにし、利用者の状況把握に努めている。本人の意思を尊重しながら自室、居間に居てもらうようにし時間毎に声を掛けたり居室に遊びにいったりし安全面に配慮している。		自室での安否はさり気なく用事を作り、安否確認を行なっている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご家族とも相談の上、入居者の状況に合わせてながら保管管理が必要なもの入居者が使う時に注意が必要な物等に分けて管理している。又使用の際は職員が付き添い一緒に使用する等の配慮を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	常に状態の把握に努めている。カンファレンスを行い事故防止に取り組んでいる。又、また研修などにも参加し知識向上に努めている。万が一事故が発生した場合は速やかに事故報告書を作成し事故対策委員会を中心に予防策を検討している。議事録は各ユニットに配布し常時観覧できる様にしている。		些細な事でもヒヤリ・ハット報告書を作成するよう事故対策委員会を中心に推進し、又報告者に不利益がないよう配慮し、事故予防に努めている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時対応マニュアルを作成し職員に周知している。又AEDを設置し心肺蘇生法などの勉強会に職員が積極的に参加し職員全員が対応できる様にしている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練、消火器取り扱い等の訓練を行っている。定期的に設備点検を行ないユニットごとにも自主的に避難訓練を行っている。又管理者勤務時消火器やボイラーの点検を毎日行なっている。		消防用設備などの点検実施項目を作成し管理者勤務時は点検行なう様にしている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その人らしい生活の場を支援するにあたりリスクが高くなる場合もあるが、残存機能を活かし、抑制感のない生活が出来る様家族と話し合いをしている。又面会時にも近況報告を常にし状況を報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状態を把握した上で体調等の変化が見られた時には管理者、看護師に報告し指示を仰ぐとともに職員間情報共有を行い対応している。		管理者、看護師不在時は訪問看護ステーションに連絡し指示を仰いでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期薬はもちろん臨時薬に対しても医師や看護師の指示を受け対応している。服薬時も飲み込むまで見届けている。		内服薬リストを作成し薬の把握に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の状態にあわせ繊維質の多い食材や牛乳等の乳製品を多く取り入れセンナ茶やオリゴ糖も使用している。又体操など体を動かす事を職員と一緒にするなどし便秘予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に応じて食後、就寝前に義歯の洗浄や口腔ケアを行っている。口腔内の清潔チェックも食事後に行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は1日1200カロリーの献立をバランスよく保っている。糖尿病の方には個々にあったカロリー制限のもと調理している。お茶を好まない方には好みの飲料を提供するなどし常に水分補給を心掛けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会を設置しマニュアルを作成して予防、対策に努めている。入居者、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。事業所ではペーパータオルを使用し清潔を心掛けている。又冬季期間は面会者にも手洗い、うがいを呼びかけし、紙コップなどを設置している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食検食を取っている。又食器類はミルトン消毒してから乾燥機にかけ消毒行い、食中毒には十分注意している。食材は1日おきに買い物へ行き新鮮な物を使用している。感染対策委員を設置し定期的に衛生チェックしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自室のダンスには何が入っているかを記名し混乱なく残された力を引き出せる様に配慮し状況に合わせて環境設備に努めている。又トイレ等は大きな字で記名し場所の混乱をなくす様に配慮している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭には小規模多機能・グループホームとそれぞれの花壇を作り利用者とともに花植えなど行なっている。畑づくりも行い共に作物づくりを楽しめる環境を作っている。又玄関先にはベンチを設置し入居者が日向ぼっこしたり涼んだり出来る様にしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

同法人病院との連携がスムーズであり、医療に関して入居者のご家族に安心と信頼を得ております。職員は明るく優しく常に入居者の事を真剣に考え日々の介護に励んでおります。